



榛名神社 詣で

目 次

榛名神社のあらまし	1	神橋・行者渓・東面堂・大黒岩	19
榛名神社散策マップ	2	萬年泉	20
参拝の作法	4	瓶子岩・瓶子の滝・暦序楓	21
一ノ鳥居	6	矢立杉	22
二ノ鳥居（銅鳥居）周辺	7	御幸殿	23
隨神門	8	お百度石	24
みそぎ橋・参道	9	双龍門・鉢岩	25
鞍掛岩・鞍掛不動	10	本殿・御姿岩	26
円乗院跡・満福院跡・秋葉様	11	国祖社・額殿	27
はかまスギ・黄金ヒノキ	12	神楽殿・神代神楽	28
水神楽あみくじ・廻運燈籠	13	古鉄灯籠・神楽碑	29
塩原太助の玉垣	14	杵築社	30
朝日岳・夕日岳	15	番所跡・松露庵句碑	31
三重の塔（五柱社）	16	砂防堰堤・つづら岩	32
犬神石・御庁宣の碑	17	降雨龍祈願彫刻	33
塞の神社	18	榛名詣で	34

榛名神社のあらまし

榛名神社は 10 世紀の初め (927) に完成した「えんぎしき延喜式
じんみょううちょう神名帳こうづけのくに*」に上野国十二社の一つとして記録されている
「しきないしや式内社」として格式の高い神社です。

鎮座地は、群馬県高崎市榛名山町字社家町です。

榛名山は多くの峰からなる山で、山頂には榛名湖や榛名富士などあり、全体の山を榛名山と呼んでいます。榛名神社はその中腹に祀られています。

主祭神は、火の神である「火産靈神」と土の神である「埴山毘賣神」の二柱です。社伝では「饒速日命」の第二子の「可美真手命」とその子供が榛名山中に天神地祇を祀ったのが起源といわれ、用明天皇元年（586年）に祭祀の場ができたといわれています。この年が丙午の年だったので、60年毎の丙午の年には、榛名神社の大祭が斎行されます。次回は2026年（平成38年）とされています。

境内山中から9～12世紀の土器、錫丈、礎石など山岳仏教の施設跡と推測される遺跡が発見され、山岳仏教の行場であったと考えられています。

* 延喜式神名帳 = 延長5年(927年)
にまとめられた「延喜式」の卷九・十のこと、全国の神社一覧



①みそぎ屋

TEL.027-374-9451



②延寿亭

TEL.027-374-9649



④三杉屋

TEL.027-374-9047



⑥般若坊

TEL.027-374-9105



⑧榛名窯

TEL.080-5017-4839



⑩いっくう

TEL.027-374-9418



⑫大龍坊

TEL.027-374-9153



⑭たつみ屋

TEL.027-374-9233



榛名神社散策マップ

国指定
重要文化財

①本殿(本社・弊殿・拝殿)

本社・弊殿・拝殿は文化3(1806)年に建てられた権現造の建物で、御姿岩の前面に接して建てられた他に例を見ない珍しい建造物です。御姿岩内の洞窟を神聖な本殿として御神体が祀られています。建物は朱と黒を基調として要所に金箔や多彩な色彩が施され、脇障子の「竹林の七賢人」や司馬温公の図など数多くの彫刻で飾られ、天井には天井画が描かれています。



至榛名湖 (4km)
至伊香保 (17km)



⑦Kafé HARUNA

こだわりコーヒーと“ジモト”食材の手作りスイーツやギフト。
⑨“Made in GUNMA”的県内作家のグッズ販売。



⑧榛名窯

楽しい「うつわ」がいっぱいの陶器屋です。

⑨北斗の森 春夏秋冬屋

化学調味料無添加にこだわって作る、山菜や旬の野菜を盛り込んだ和洋のお食事をどうぞ

観光案内所
観光パンフレット

⑩いっくう

こだわりのお蕎麦を毎日手打ちで仕上げています。

⑫大龍坊

地元素材をふんだんに使った宿坊料理と門前そばが絶品。

⑬小松屋

製粉所で打ち立ての門前そばが絶品。

P P P P

P P P P

P P P P

P P P P

P P P P

P P P P

P P P P

P P P P

P P P P



砂防ダム (国指定有形登録文化財)

群馬県内で5基しかないという高度な石積技術で、昭和30年の竣工以来、半世紀にわたって地域の防災上さわめて重要な役割を果たしてきました。練石積の外觀と渓谷景観の調和は四季折々に楽しめます。

つづら岩

砂防堰堤の上流にそびえる奇岩。

参拝の作法

鳥居の下をくぐるときは、中央を避けて一礼する。
(中央は、神様が通る道。参道も同じで中央は避ける)

手水舎（心身を清める場所）



最初に右手で水をすくい
左手を洗う（清める）



柄杓を持ち替え、左手で
右手を洗う



柄杓を右手に持ち替え
左手に水をため、その
水で口をすすぐ。



最後にもう一度左手を
洗い残った水で柄杓の
柄を洗い流す。

神前拝礼

なるべく中央に立たないようにして、軽く一礼をする。
さい錢は、音を立てないように納める。

二拝二拍手一拝



2回深くお辞儀をする

胸の前で手を二回打つ



最後に一回頭を下げる

帰りも中央を避けて歩き、鳥居の下をくぐるときは、中央を
避けて一礼する。

いちのとりい 一ノ鳥居

ご本殿から7キロほど離れた上室田町に建っている榛名神社の一之鳥居。皇紀2600年（昭和15年）を記念して昭和17年に建てられた鳥居も74年が経過し、平成28年に再建されました。鳥居には一般社会と神域を区切る結界のような意味があるともいわれています。

春には満開の桜で訪れる人々を魅了致します。



にのとりい 二ノ鳥居（銅鳥居）周辺

この社標の「榛名神社」と書かれた文字は「川合玉堂」の書といわれています。
反対側には「下馬札（高札）」があります。ここから先は、乗り物は禁止となります。

これが二ノ鳥居です。銅鳥居「かなとりい」などとも呼ばれています。

安永二年（1773）に、浜川村（現高崎市浜川）の田端徳右衛門の発願により建立されました。柱の周囲には淨財を出した人々の名前が刻まれています。

鳥居の左側に原田槐雲の頌徳碑があります。原田槐雲は榛名山の人で、学者・書家としても名高く、隨神門の天井に書かれている「雲龍」の文字も原田槐雲が書いたものです。

碑は槐雲没後、門人たちによって建立された功績をたたえる記念碑です。



下馬札 = 馬（車）から下りる場所
高札場 = 法令などの規則を板書した高札

すいしんもん

隨神門（国指定重要文化財）

この隨神門は国指定重要文化財で、弘化4年（1847）に建てられた三間一戸の八脚門です。神仏習合時代には、運慶作と伝えられた仁王像が置かれた仁王門でしたが、明治元年（1868）神仏判然令が出されると、仁王像は焼かれてしまいました。

現在は明治39年（1907）に「丙午の大祭」を記念して、隨神像が祀られ「隨神門」と呼ばれています。

運慶

平安時代末期、鎌倉時代初期に活動した仏師

隨神門（天井に原田槐雲の「雲龍」の書がある）



みそぎ橋・参道

この右上は「実相院跡」といわれています。

この赤い橋は「みそぎ橋」と呼ばれています。身を清めるために禊をするということです。(みそぎは川や海の水で体を洗い清めること)

本来は対岸にある鞍掛不動の行場へ行く橋でした。その降り口にあった袖垣がこちらです。

参道は敷石で整備されています。この参道で庄巻なのが玉垣です。本殿まで両側に講や個人が奉納した玉垣が続いています。

中には皆様ご存知の人もいると思います。

また、所々に建つ講の参拝記念碑や近年では七福神なども建立されています。



くらかけいわ くらかけふどう 鞍掛岩・鞍掛不動

対岸に石垣が見えます。そこに灯籠と石碑が見えます。
ここには、不動様が祀られていて「鞍掛不動」と呼ばれてい
ました。

また、修験者が修行をした所といわれ、小さな滝で滝行を
したと伝えられる池の跡や滝を作るための水路の跡なども確
認されています。



対岸の上の方に見えるのが鞍掛岩です。

なべの持ち手の弦のように形になっていますが、昔は洞窟
であったと伝えられています。穴の前を残して奥が崩れ、現
在の形になったといわれています。



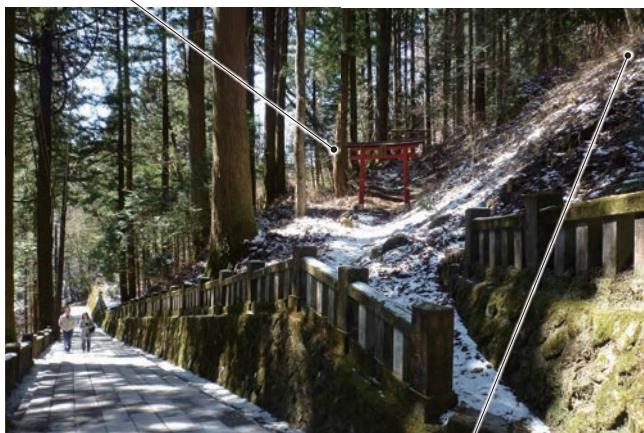
えんじょういんあと まんぶくいんあと あきばさま 円乗院跡・満福院跡・秋葉様

右下の平坦なところが、円乗院の跡です。



秋葉様の鳥居

円乗院跡入口



石垣上が満福院跡

左上の石垣の跡が満福院跡です。

あの赤い鳥居は、尾根に祀られている秋葉神社の鳥居です。秋葉様は火の神様で、防火・鎮火の神といわれ、台所などに祀っている家もあると思います。関西では「愛宕様」などと呼ばれているようです。

はかまスギ・黄金ヒノキ

はかま
袴スギ

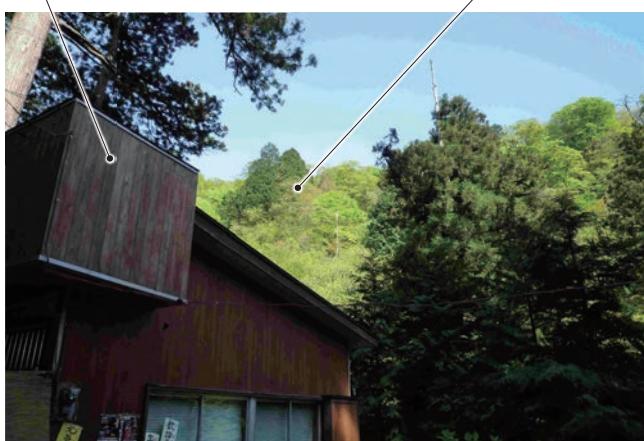


この根元が太い杉を袴スギといいます。

対岸の尾根に、宝珠を思わせるようなヒノキが生えています。黄金ヒノキといい、市の天然記念物に指定されています。葉先に金色のまだら模様があるからといわれています。

山昇堂

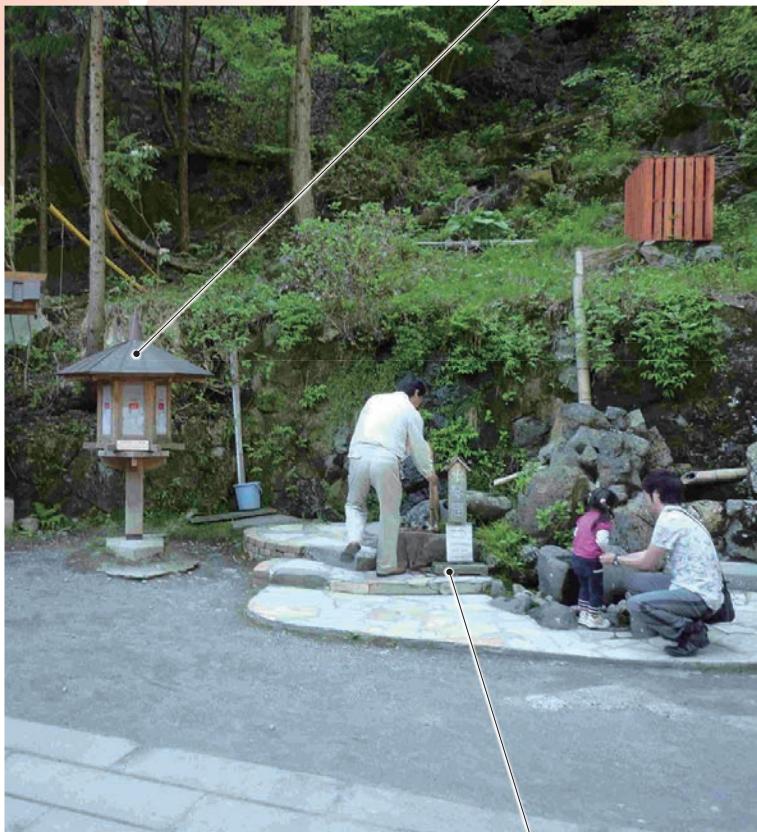
丸ぼいヒノキ



みずかぐら
水神楽おみくじ・廻運燈籠

かいうんとうろう

廻運燈籠



水琴窟

しおばらたすけ たまがき
塩原太助の玉垣

この玉垣を奉納したのは塩原太助です。

塩原太助はみなかみ町（旧新治村）の生まれで、江戸へ奉公に出ました。そこで頑張って自分で店を持つまでになりました。太助は炭問屋を営み、炭の粉に工夫を重ね太助にちなんで「あたどん」略して「タドン」などの商売に成功し莫大な資産を残しました。

塩原太助の話は、愛馬「アオ」などで親しまれて来ました。

上毛カルタでは、「沼田城下の塩原太助」として子供たちもよく知っている上州人です。

このあたりに庖瘡神
と呼ばれる石宮

庖瘡神=疱瘡をつかさどる
という神。この神に祈ると
疱瘡を免れ、または軽くし
てもらえると信じられ
た。



塩原太助と刻まれた
親柱

あさひだけ ゆうひだけ
朝日岳・夕日岳

左の岩山が夕日岳、右の岩山が朝日岳です。

朝日岳の中腹には、宝珠窟と呼ばれる洞窟があります。

かつては朝日岳を雷天岳、夕日岳を風天岳と呼んでいたといいます。



夕日岳



朝日岳

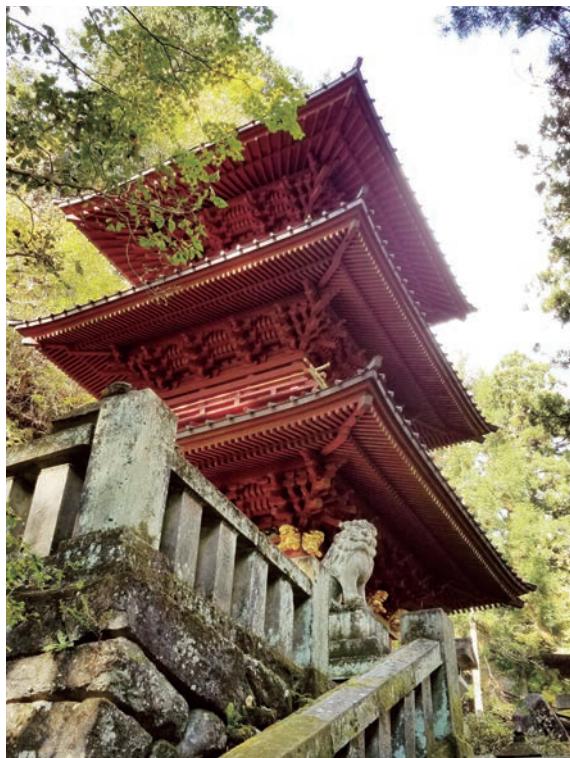
さんじゅうとう

三重の塔（県指定重要文化財）

明治2年（1869）に多くの人々の寄進によりたてられた三重の塔です。高さは18mあり、五柱社と呼んでいます。県内唯一の三重の塔です。

神仏分離のときには取り壊しの命を受けましたが、完成直後だったために神社として五柱の神様をお祀りして免れたといわれています。

神社とお寺が混在していたころの名残で県指定重要文化財です。



寄進=物品や金銭を寄付すること

いぬがみいし みちょうせん ひ 犬神石・御庁宣の碑

ここではトマトの碑が目につきますが、この台石に使われているのが「犬神石」です。石の所々に窪みがあり、そこに溜まった水を目に付けると眼病が治ると信じられています。

左側岩上の碑は「御庁宣の碑」です。榛名神社の古文書の中でも最も古いといわれる「留守所下文」(1190)を彫ったものです。内容は「榛名神社は健児・剣非両使の権力行使を停止する」という時の政府から留守所に下した文書です。

碑文をよく見ると、文書にある虫食いの穴まで忠実に彫られているそうです。

健児=奈良から平安時代の地方軍事力

留守所下文=平安時代、庁宣を国内に下達執行するため留守所が出した下文。

三の鳥居



御庁宣の碑

犬神石

さい かみしゃ 塞の神社

榛名山内に災いが入ってこないように願うのが、この「塞の神」です。

6月と12月に神事がこの祠の前でおこなわれます。

神事の後、黒門橋・稻荷橋・番所跡の門・地蔵峠口の四ヶ所に注連縄を張り、道切をします。その注連縄は、紙垂が8垂れ、中央に竹で作った「あ樽」と呼ばれるものに神酒を入れ、杉の若葉で口に栓をし、「塞神三柱守給厄」と書いた木札を掛けるのだそうです。



これを紙垂といいます

しんきょう ぎょうじやけい とうめんどう だいこくいわ 神橋・行者渓・東面堂・大黒岩

この赤い橋は神橋です。元は「懺悔橋」と呼んだそうです。

この谷を行者渓といいます。役の行者伝承によるものと言われています。

右下に見える岩が大黒岩です。

左上の崖の中腹に木の扉が見えます。東面堂の須弥壇の跡と言われています。

歌川広重が描いた「榛名山雪中の図」には、東面堂・懺悔橋、これから行く萬年泉などが描かれています。

杉林の中腹に東面堂跡



さい かみしゃ
塞の神社

大黒岩



神橋

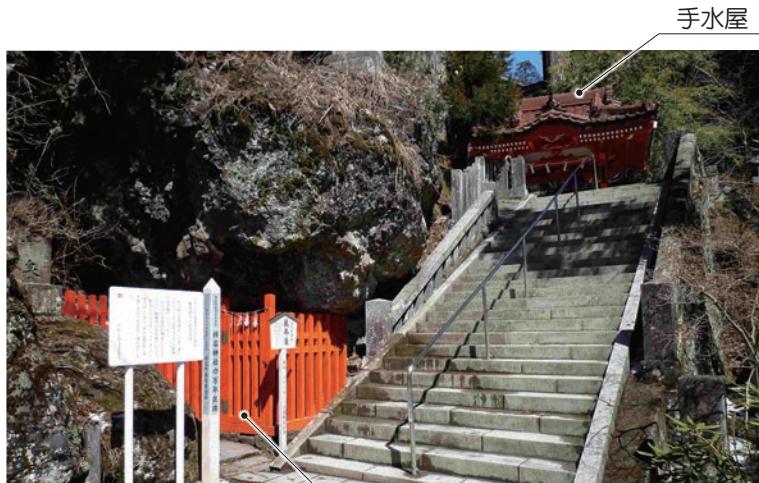
まんねんせん 萬年泉

ここが萬年泉です。あふれることもなく涸れることもないといわれるこの泉は、干ばつの年には関東一円の村々から、御神水を求めて登山してきたといわれています。

村々では鎮守様などで雨乞いの行事をあこない。それでも降らなければ、最後の頼みの綱として榛名へ来たといいます。

この水を汲み、本殿でご祈祷を受け、途中で休むとそこに雨が降ってしまうため、リレーのようにして村へ水を持ち帰り、雨乞いの行事を行ったといいます。

するとたちどころに雨が降ったといわれています。



手水屋（てみずや 手と口を清める場所 手水舎とも言います。）

みすずいわ みすず たき れきじょふう 瓶子岩・瓶子の滝・暦序楓

この正面に見える岩が瓶子岩と呼ばれています。そして滝が瓶子の滝です。滝の流れている両脇の岩を神に捧げる神酒を入れる器の瓶子（別名「みすず」）に見立てたところからその名が付いたと言われています。

この空き地に暦序楓と呼ばれたカエデがありましたが枯れてしまいました。このカエデは十二葉もみじともいい、通常は葉に十二の切れ込みがありますが、13ヶ月になる閏年は十三に分かれたといわれています。

※現在の閏年は2月28日に1日プラスし29日があり、オリンピックの年となっていますが、昔の閏年は、月が1ヶ月多かった。



やたてすぎ

矢立杉 (国指定天然記念物)

こちらが有名な「矢立杉」です。国の指定天然記念物です。
樹齢は 5 ~ 600 年といわれています。

武田信玄が箕輪城を攻める時、戦勝祈願に矢を射立てた
(放った) と伝えられています。

この杉の木は、右側にも同じような杉が見られ、本来は参道を挟んで対に植えられた御神木ではないかと考えられます。

高さ 55 メートル 幹の周囲 9.4 メートル



みゆきでん

神幸殿（国指定重要文化財）

こちらは神幸殿と表し「みゆきでん」と呼んでいます。

安政6年（1859）に建てられました。国の指定重要文化財です。境内の建物の中ではもっとも簡素な形式を持ち、色彩は施されてあらず、古い時代の仏堂の形式を踏襲しています。

榛名神社例大祭のとき、御神体の鏡が神輿に移され、5月8日の早朝ここへ渡御され15日の早朝本殿へ還御されるまで、ここに神輿が駐ります。

この社殿は例大祭の期間だけ開かれています。期間中は氏子が神輿番としてここに詰め、どなたでも昇殿参拝することができます。



踏襲=それまでのやり方を受け継いで、その通りにやること。

ひやくどいし お百度石

こちらが「お百度石」です。

神仏にお願いをするとき、「お百度参りをする」などとい
います。その標柱として建てられたのがこの「お百度石」です。

天保五年（1834）の建立です。

神社には、お百度参りのときに使われたと思われる木製の
数取り機があるそうです。

あ百度石



お百度参り

社寺の入口から拝殿・本堂まで参拝し、また社寺の入口まで
戻ることを百度繰り返す。俗にこれを「お百度を踏む」という。

そうりゅうもん

双龍門（国指定重要文化財）・鉢岩

ぬぼこいわ

あちらの階段の上に見えるのが国指定重要文化財の「双龍門」です。

安政二年（1855）に建てられた四脚門です。総ケヤキ造りで全体に彫刻が施された高い装飾性を持った建物です。

彫刻や絵柄などに龍が多く「双龍門」と呼ばれています。

らんま
欄間の透かし彫りは三国志にちなんだものといわれ、彫り物師は長谷川源太郎、天井画の龍の水墨画は矢島群芳、大工棟梁は清水和泉。

左側にある鉢を思わせる岩を「鉢岩」と書いて「ぬぼこいわ」いいます。また、ローソク岩などと呼ばれる奇岩で、双龍門とあわせて山内の名勝のひとつです。



ほんでん

本殿（国指定重要文化財）・御姿岩

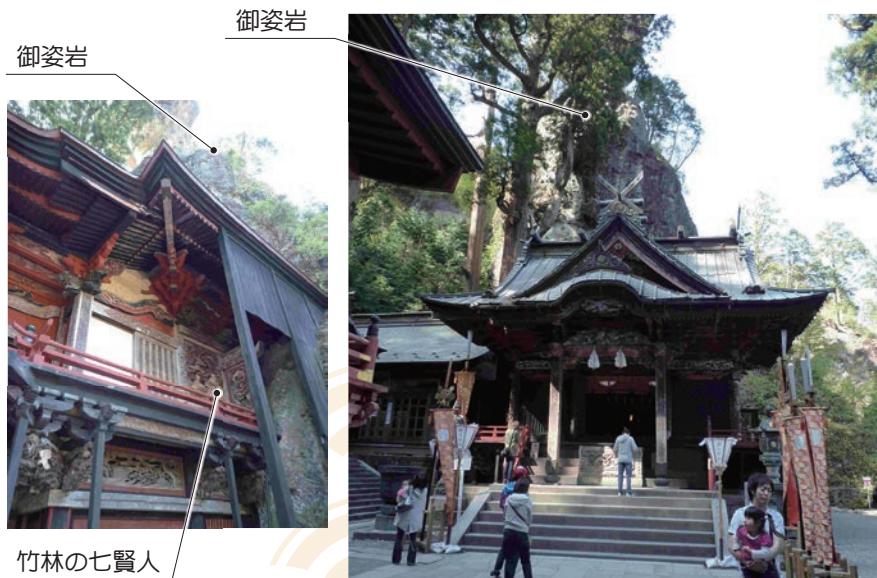
みすがたいわ

こちらが榛名神社本殿です。国指定重要文化財になっています。本社・幣殿・拝殿は文化三年（1806）に建てられた権現造りの建物で、御姿岩の前面に接して建てられた、他に例を見ない珍しい建物です。

建物は朱と黒を基調として、要所に金箔や多彩な色彩が施され、左右の脇障子の「竹林の七賢人」や「司馬温公」の図など数多くの彫刻で飾られています。また、格天井には花鳥・飛龍が描かれています。

主祭神は、火の神の「火産靈神」と土の神の「埴山毘売神」です。

この後ろの岩を御姿岩といい、下にある洞窟を神聖な本殿（ご内陣とも言う）として御神体が祀られています。



こくそしゃ がくでん

国祖社・額殿（国指定重要文化財）

こちらの右側が「国祖社」左側が「額殿」で共に国指定重要文化財になっています。

国祖社は享保年間（1716～35）に建てられ、神仏習合時代は、本地堂と呼ばれ本地仏の「勝軍地蔵」が祀られていました。基礎は本殿と同じ高さに造られ、入母屋造で向拝や欄間の彫刻が見られますが、全体的に装飾は控えめになっています。

額殿は、文化十一年（1814）に国祖社の側面に増築される形で建てられました。元々「御神楽拝見所」として建てられ、榛名神社太々神楽講の人々が参拝に訪れ、太々神楽が奏上されるときに、桟敷を敷いて神楽を見るところでした。

建物内外に大小の太々神楽の奉納額が掲げられていたことから「額殿」と呼ばれています。



かぐらでん
神楽殿 (国指定重要文化財)・神代神楽
らいじん
らいじん
みだくつ
雷神・弥陀窟

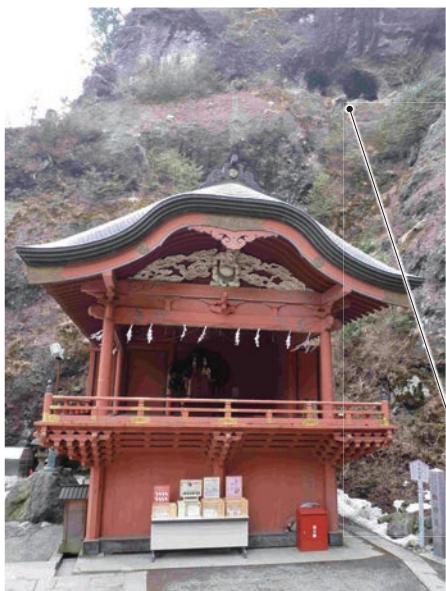
こちらが「神楽殿」です。これも国指定重要文化財になっています。明和元年(1764)に再建された建物です。神楽を本殿に向かって奏上するため、舞台の高さは本殿の床の高さに合わせて造られています。

床は板張り、三方向を吹き放し、格天井には花鳥獣や神楽面などが描かれています。屋根の梁を雷神が持ち上げているのがわかりますか？

この神楽殿で奏上されるのが「榛名神社神代神楽」で群馬県の指定重要無形文化財になっています。

男舞22座、巫女舞14座の36座の演目があります。摺り足を基本としています。

神楽の奏上は、2月15日の神楽初め、5月5日の端午祭、5月8日の神幸祭、また、太々神樂講の奉納による奏上もあります。



神楽殿の後ろの岩山の中腹に3箇所の窪みが見えますが、弥陀窟と呼ばれています。この窪みには、阿弥陀三尊が祀られているとも、弘法大師が彫った阿弥陀如来像が納められているともいわれたり、御姿岩と向き合って修行をした場所ではなどといわれています。

弥陀窟

こてつどうろう

古鉄灯籠（県指定重要文化財）・神楽碑

かぐらひ

こちらが群馬県指定重要文化財の「古鉄灯籠」です。
元亨三年（1323）に新田義貞が寄進したと伝えられています。

笠の部分はのちの補作とされています。
銘文は「沙弥願智と称する人物が、子孫繁昌 現生安穩
後生善処 法界衆生 平等利益を願って、ここに無いものは
灯籠だけなので寄進する」と書かれているそうです。

その奥にあるのが「神楽碑」です。上部には「さかきば
の カをカぐはしみ とめくれば 八十氏人ぞ まどいせり
ける」と神楽歌が刻まれ、下部には、翁が和琴を弾き、嫗が
笏拍子を打っている図が線刻で描かれています。

嘉永三年（1850）建立です。



神楽碑の神楽歌の意味

「さかきばの カをカぐはしみ
とめくれば 八十氏人ぞ
まどみせりける」

「榦葉の 香を芳しみ 尋め来れば
八十氏人ぞ 円居せりける」と書きます。

意味は、「榦の葉の香りが大変芳しいので、尋ねてきたところ、たくさんの人人が集まり車座になっていた。」

きつきしゃ
杵築社

ここに出雲大社の分社があります。杵築社は、現在の「出雲大社」の古い呼び名です。

縁結びの神様として有名な出雲大社のご利益を受けたい人はどうぞご参拝下さい。



ばんしょあと しょうろあんくひ 番所跡・松露庵句碑

ここが榛名山番所跡です。この道は榛名神社の裏から榛名湖へつづく「関東ふれあいの道」になっています。約1時間で榛名湖へ着きます。

榛名山番所の設置は寛永8年(1631)9月、廃止は明治2年(1869)1月という記録が残っています。昭和初期、現在の県道が完成するまでは、この道が榛名湖へ行く唯一の道でした。

現地の道標は六角形の石灯籠があります。

信州大戸通りの裏往還の通行を取り締まっていました。

左上の石の上に碑が建っています。松露庵句碑と呼んでいます。松尾芭蕉を頂点に、松露庵系譜につながる俳諧の歌碑です。

芭蕉の句を中心に、自然石を利用して波形の表面を扇に見立てて作られたものと思われます。



さぼうえんてい

砂防堰堤（国指定有形登録文化財）・つづら岩

この大きな堰堤は、榛名川上流砂防堰堤で国の登録文化財になっています。

昭和30年の竣工以来、半世紀にわたって地域の防災上きわめて重要な役割を果たしています。

高さ17mの練石積（石と石の間にコンクリートを混ぜた積み方）の大規模な堰堤です。これと同じようなものは、この他県内に4基しかありません。当時の高度な石積技術を用いたことがうかがえます。

堰堤に上流に少しだけクネクネした岩が見えます。あれは奇岩のひとつ「つづら岩」です。



つづら岩



こううりゅうきがんちょうこく 降雨龍祈願彫刻

こちらの石には、龍が線刻されています。雨を降らせる龍が彫られているということです。

いま雨を降らせてくださいというよりは、いつまでも恵みの雨をお願いしますという願が込められているものと思われます。

現在の榛東村陰陽学士小野関三太夫清繁大正13年9月1日の作です。

表面に磨耗した
龍が確認



側面に鱗が確認
できます。

榛名詣で

キクモ ナツカーヌシイワマノ
カーグーラ マツルゴヘイノミスガタイワハ
クニノマモリノーハルナーサーン一

1 聞くもなつかし いわま 岩間の神楽

まつる御幣の 御姿岩は

国まともの護りの 榛名山

2 愛馬あと別れて 塩原太助

江戸とへ行く途中 榛名山まいに詣り

願ひかなふて この燈籠

3 心淨めて みそぎばし 祓橋渡りや

川きよみづは清水 錦にしきの紅葉もみじ

ながめ自慢ぎょうじやだにの 行者渓

4 めでたうれし 目出度嬉しや だいさんまい 代参詣り

サアサー泊 やど 檍名の社家で
あやまいわ 登山祝いの ごしょうらく 後生楽

5 檍名恋しや かすみ 霞か花か

花はサクラよ 檍名の富士よ
こすい みずかがみ 浮かぶ湖水の 水鏡

6 伊香保一夜は ほのぼのあけて
けむる 煙むる 温泉の香に ゆ あぼろ 身も世も朧
まい サアサ詣ろよ 檍名山

7 今日は作神 さくがみ 檍名山の日待ち
あみき 御神酒あたんまり はるな 赤飯あげて
天下泰平の 後生楽





発行・監修
榛名神社
令和2年11月第2版(非売品)